

特別養護老人ホーム いこいの杜

1 基本方針

入居者が、楽しく生き生きと安心して過ごすことが出来る環境作りに努める。

よりよいサービスを提供するために、専門職としての倫理と誇りを持ち、技能の研鑽に努める。

入居者、家族、地域住民との連携を強め、地域に開かれた信頼される施設づくりに努める。

2 今年度重点事業目標

(1) 多職種協働によるチームケアの充実

ア 認知症ケア

優しさを伝える技術ユマニチュードを基本とし、より気持ちに寄り添い、生活のしづらさを理解するための視点を評価的理解、分析的理解、リフレーミングにおき、認知症の人が「自分らしく生きる」自信につながるケアの実践に取り組む。

イ 口腔嚥下機能

最後まで「味わい」や食を介した「絆・癒やし」を感じる「人生の楽しみ」となる食生活支援における嚥下機能維持向上の取り組みを行う。

ウ 事故防止

繰り返されるリスクの防止策として「何故」と「みんなで考えてみる」に焦点を当てた研修を重ねリスクの軽減に取り組む。

エ 身体的拘束適正化・虐待防止

基本的な接遇の振り返り、虐待の芽、不適切ケアに対する意識を高め、サービスの向上につなげる。職員が問題を一人で抱え込まない、相談しやすい環境づくりの取り組みを継続。

オ 医療的ケア

多職種連携のもと、入居者の重度化に対応した安心・安全な医療的ケアを提供する。

カ エンド・オブ・ライフ・ケア

人生のエンドポイントを見据えた日常的なライフケアの実践とその人らしいQOD(死の質)を考えた尊厳あるケアの取り組みを行う。

キ 自立支援

セラピストを主にリフトマネージャーを位置づけ、福祉用具の安全かつ適切な使用を促進する。また、自立度を考慮した生活リハビリの実施により機能維持や褥瘡・拘縮の悪化防止を図り、その人らしい活動支援に努める。

(2) 経営改善・基盤の確立

ア 入所稼働率96%を確保する。

イ 防災・減災を目的に各種訓練を実施し有事に備える。また、急な集中自然災害の備えに重点をおき、平常時と同様の支援体制の継続に努める。

ウ 新型コロナウイルスの新情報に合わせた感染防止対策の強化を図る。

(3) 職員の資質向上と人材育成

ア 職員の専門性、資質向上を図るため、社会福祉士1名、介護福祉士2名、介護支援専門員2名、ユニットリーダー2名の資格取得を目指す。

イ 幅広い受講形態を導入し、個々の研修計画・経験・レベルに沿った支援を行い専門性の向上を図る。

(4) 地域との連携・交流の促進

感染予防対策を講じながら、地域住民や各種学校等との交流を促進し地域連携に努め、協働して地域福祉を推進する。

(5) 労働環境の整備

ア 多種多様な福祉用具の効果的活用、導入の研究を行い「持ち上げない、引きずらない介護」を促進させ、腰痛予防や介護負担の軽減を図る。

イ 労働時間の管理、業務の効率化、業務負担の軽減、時間外勤務の軽減に努める。

ウ メンタルヘルス対策として、ストレスチェックの結果（個人結果・集団分析）の活用、アンガーマネジメント、ハラスメントなど精神的ケア研修を通して自己成長に視点をおき、働きやすい職場環境を目指す。